平成 28 年 6 月 23 日

中山道を歩こう会

（南浦和～大宮）

今回は武蔵浦和駅からスタートして、浦和宿から大宮宿を歩きます。大宮では氷川神社の参道である古中山道をとおります。

記

■**日　　時**：平成 28 年 6 月 23 日（木）8 時 40 分集合

■**集合場所**：新秋津駅 改札外
（東所沢駅乗車の方は事前連絡下さい）

■**見学場所及び時間：コース全長約 10km**
新秋津駅(8:45)⇒武蔵浦和（武蔵野線）⇒調神社
⇒浦和宿（玉蔵院、本陣跡、二七市場跡）⇒**昼食**
⇒廓信寺⇒氷川神社一の鳥居⇒塩地蔵⇒さいたま市立博物館
⇒大宮駅…武蔵浦和経由　所沢（17 頃帰着予定）

■**交通費（所沢から）：約 1,000 円　　☎048-823-9337**

■**昼食**　サイゼリア北浦和店　**11:40～12:40**

■**散策先簡単ガイド**

＜調(つき)神社＞

調神社は延喜式にも記載された古社で、創建は奈良時代以前です。調神社の調は租庸調の調で、租は米、庸は労役、調は織物。ただし特産物や貨幣で収めても良いそうです。そして御調物(みつぎもの)を集めた場所に宮を建て**調**(つき)**の宮**といわれました。御調物の搬入・搬出の邪魔になるということで神社に必ずある**鳥居がありません**。調(つき)が転じて月となり、うさぎが神の使いとなり、狛犬の代わりには**うさぎ**がいて、いろんなところでうさぎが見かけられます。そして廿三夜の月待ちも行われていました。

境内の林は市の天然記念物になっていますが欅（けやき）の木が多いです。欅の古名は**槻**（つき）といいます。こんな所もつきづくしです。

調神社では、次の七不思議が伝わります。

1. 鳥居がない：調物の運搬の妨げとなる鳥居を除いた
2. 松がない：当地に姉神・弟神がいたが、弟神は大宮に行ってしまい姉神が待っても帰ってこなかったため、もう待つことは嫌いだと言ったことに由来する
3. 御手洗池（ひょうたん池、現在はない）の池に魚を放つと、片目になる
4. 兎を使姫とすること
5. 日蓮聖人駒つなぎのケヤキ：佐渡島に流罪途中の日蓮が、当地で難産に苦しんでいた女性のためケヤキに駒を繋いで安産祈祷をしたことに由来する。
・日蓮佐渡流罪のルートは鎌倉街道上ツ道（東村山の立川家に泊まった）を通ったとされていることを考えるとここを通ったというもの不思議です。
6. 蝿がいない
7. 蚊がいない

駒繋ぎのケヤキ

幹周り 7.8m

「日蓮上人駒つなぎ欅」の表示の隣の切り株が本当の駒つなぎ欅ケヤキで、現在のケヤキはそれを引き継いだもののようです。

なお、調神社の隣には、調公園があり多くの市民の憩いの場となっています。ここでちょっと一息入れましょう。

境内には多くのケヤキの巨樹があります。その中で、このケヤキはなんか顔に見えませんか？

http://members2.jcom.home.ne.jp/y-tadashi-jp/tsukinomiya/tukinomiya.htm

＜浦和宿＞

浦和宿は大きい宿ではなく、本陣 1、脇本陣 2 で旅籠は 15 と板橋宿から本庄宿の間では一番少なかったようです。

青山茶舗：明治初期、中仙道浦和宿である現在の地に創業　（岸町 4-25-12）

岸村：昔のこの辺りに大きな川が流れていて、その岸に臨む村であったことから名づけられました。

浦和宿標柱：浦和宿入口に新しく建てられた標柱が立っています。

【玉蔵院】

宝珠山延命寺という山号・寺号を持つ玉蔵院は伝承によれば平安時代初期に空海により創建されたといいます。1591 年に徳川家康が 10 石の寺領を寄進。本堂は 1701 年に再建され、以後徐々に復興。関東十檀林の一つに数えられていました。

江戸時代に浦和宿が興る以前の浦和は玉蔵院や調神社の門前町として栄えていました。玉蔵院文書と平安末期の木造地蔵菩薩は県の指定文化財になっています。

【浦和宿本陣跡】：仲町公園内

浦和宿の本陣・問屋は星野権兵衛家が命じられ、代々務めました。本陣の敷地は 1200 坪、母屋は約 210 坪、他に表門、土蔵、番所、物置などがありました。明治時代には、明治天皇が大宮氷川神社へ行幸される際の行在所として利用されました。表門だけは現在、緑区大間木に移築され現存します。（市指定有形文化財）。

【浦和宿二七の市場跡】

慈恵稲荷神社の鳥居の脇に浦和宿の市神を祀った祠がありその前には市の跡を示す石柱が立っており、正面には「御免 毎月二七市場定杭」、右側面は「天正一八年（1590）七月」と刻まれています。天下統一を果たした秀吉

は浅野長吉に市を開かせました。そして、喧嘩口論、押売押買等を禁止した市場掟を発給しています。その名の通り、毎月二と七のつく日に市を開く六斎市です。

市場通りで

【浦和一里塚】

浦和橋手前の信号あたりに浦和一里塚がありました。一里塚の痕跡は全くありませんが、中山道分間延絵図に描かれている笹岡稲荷が線路北側に現存しています。

＜昼食＞　サイゼリア北浦和店（11:40～12:40）

【廓信寺】

紅赤（通称金時）芋の発見普及をした山田・吉岡両家の菩提寺、サツマイモの女王紅赤の発祥の地の看板がある。樹齢 300 年と推定されるカヤの木は市天然記念物。本尊の木造阿弥陀如来座像は県指定文化財。

【庚申塔】　正徳 4 年造立の庚申塔

【一本杉】

万延元年（1860 年）ここで仇討ちがありました。その後、明治政府により仇討禁止令が出されてこの仇討が最後の仇討です。この事件は講談として江戸で上演されるなどし、『中山道針ヶ谷 一本杉の仇討ち』として広まっていきました。討たれた方の墓は廓信寺にある。

【半里塚跡のケヤキ】

道路の中央に浦和と大宮の一里塚の中間にある半里塚跡にケヤキがありましたが残念ながら倒木の危険があるので、切り倒されてしまいました。与野駅の改札口前に大ケヤキの幹の輪切りが保存されているそうです。

【六国見】

半里塚から先、浦和と大宮の中間の大宮宿よりに立場の茶屋がありました。この辺り、昔は野原の中の一本道で相模国の富士、信濃国の浅間、甲

斐国の赤石・秩父、武蔵国の多摩、下野国の日光、上野国の妙義・榛名の山々が見え六国見と呼ばれました。

【お女郎地蔵と火の玉不動】

さいたま新都心の手前の歩道に地蔵菩薩と不動明王がある。暗渠になっていますが、導水路があり、昔は高台橋が架かっていた。そして江戸初期に浦和代官が設けた刑場がありました。

お女郎地蔵：材木屋の若旦那と夫婦約束した大宮宿の遊女の千鳥が，大泥棒に見初められ何が何でも身請けすると迫られ思い、あまってこの橋から身投げしたといいます。

火の玉不動：刑場の無縁仏の供養塔です。毎夜この橋付近を火の玉が飛ぶ。ある男が斬りつけるとキャッと声がして消え、暗がりにいた不動明王と名乗る男が「剣を斬りおとされた」と言い消えた。高台橋に行き不動を確かめると剣を持っていなかった。これが、高台橋にまつわる話です。

＜大宮宿＞

中山道の前身となる街道は、後北条氏によって整備されましたが、その時は浦和宿の次が上尾宿となり、大宮は馬継ぎをする場でした。街道は、一の鳥居から氷川神社の参道を通り、神社の前で折れて迂回していました。天正 19 年（1891 年）に宿役を勤めると願いを出し大宮宿が設けられたといいます。ただし、他の宿場の整備年代との関連で、もう少し年代が下るのではないかとも言われます。

寛永 5 年（1628）に、現在の真っすぐな道を開き宿場をそこに移しました。往還の人を神社に参らず通過させるのが神に対して恐れ多いこと、道を真っすぐにすると便利なこと等がその理由です。

今回は、氷川神社の参道である古中山道を歩きます。

＜武蔵国一宮　氷川神社　一の鳥居＞

氷川神社は東京都・埼玉県近辺に約 200 社ある氷川神社の総本社です。祭神は須佐之男命の他、稲田姫命　大己貴命（おおなむちのみこと）です。

景行天皇の代に出雲の氏族が須佐之男命を奉じてこの地に移住したと伝えられます。成務天皇の時代に出雲の兄多毛比命（えたもひのみこと）が武蔵国造となり、当社を崇敬した。この一帯は出雲族が開拓した地であり、武蔵国造は出雲国造と同族とされます。社名の「氷川」も出雲の「簸川」（現在の斐伊川）に由来するという説があります。

中世以降、源頼朝を始めとする坂東武者の信仰の対象にもなり、各地へ勧請されました。氷川神社より勧請を受けた神社は、関東地方を中心におよそ 1,000 社ある。

武蔵国内における氷川神社の位置付けには、一宮と三宮の 2 説があり、三宮とする場合、一宮は小野神社になる。

一の鳥居から宮までは 18 丁（1 丁≒110m　なので約 2km）

【塩地蔵】

昔、浪人が 2 人の娘と旅をしている途中、大宮宿で病に倒れた。その晩、夢枕に地蔵が現れ塩断ちをするように告げた。娘はお告げに従い、塩断ちをして地蔵堂に祈ると願いは叶い、父の病は快癒する。喜んだ父娘はたくさんの塩を奉納しました。その後、人々はここに塩を供えるようになったそうです。

【さいたま市立博物館】

地下 1 階の常設展示室では、さいたま市域の歴史を時代ごとにたどることができる展示を行っています。

【北澤稲荷】

大宮駅そばの高島屋の屋上に北澤稲荷がある。この場所が紀州家鷹場本陣であった北澤家があったところです。

＜帰路＞

大宮（埼京線）⇒南浦和（武蔵野線）⇒新秋津・秋津経由

所沢着 17:00 頃予定

以上